



## 2023年3月期第3四半期 決算説明資料

2023.02.03

TIS株式会社

© 2023 TIS Inc.

- TISの河村でございます。よろしくお願いいたします。
- それでは、本日15:00に発表しました、2023年3月期第3四半期の決算の内容について、ご説明します。

### 2023年3月期第3四半期（累計）業績概要

- ・上期に引き続き前年同期比増収増益。
- ・売上高総利益率は上期からさらに向上。営業利益率は12.0%に。
- ・受注高・受注残高も過去最高に積み上がる。  
（第3四半期受注高の減少は反動減などによるもの）

### 2023年3月期 業績見通し

- ・政策保有株式縮減に伴う特別利益の計上等を踏まえ、当期純利益を上方修正。

- ・はじめに、2ページをご覧ください。
- ・今回の決算のハイライトです。
- ・まず、2023年3月期第3四半期の業績についてです。
- ・第3四半期累計の業績は、上期に引き続き好調で、前年同期比増収増益となりました。
- ・収益性については、積極的な成長投資を継続しながらも売上総利益率が上期からさらに向上し、営業利益率は12.0%となりました。
- ・受注高・受注残高も第3半期累計では過去最高に積み上がりました。直近の第3四半期では減少したものの、反動減や受注計上の波の影響であり、事業環境に対する見方に上期から大きな変化はありません。
- ・次に、2023年3月期の業績見通しについては、政策保有株式の縮減に伴う特別利益の計上等を踏まえて当期純利益を上方修正しました。引き続き、中期経営計画の最終年度である2024年3月期の計数目標を上回る水準を目指してまいります。

## 2023年3月期第3四半期（累計）業績概要

## 2023年3月期 業績見通し

## 参考資料

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、TISインテックグループ（TISおよびグループ会社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・各四半期会計期間（3カ月）の数値は累計期間の差引により算出しています。

・各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。（P.9、P.12除く）

・2023年3月期第1四半期から新マネジメント・アプローチの適用に伴い、セグメント区分を変更しています。2022年3月期の数値は変更後のセグメントに組み替えて算出したものです。

(説明省略)

2023年3月期第3四半期（累計）業績概要

2023年3月期 業績見通し

参考資料

（説明省略）

## 2023年3月期第3四半期（累計） 業績ハイライト（前年同期比）



・顧客のデジタル変革需要等のIT投資ニーズへの的確な対応を通じた事業拡大により、増収増益。  
 ・引き続き力強い増益率を実現し、営業利益率は12.0%を達成。

(百万円)	2022年3月期 第3四半期 (累計)	2023年3月期 第3四半期 (累計)	前年同期比	
売上高	353,133	<b>370,382</b>	+17,249	(+4.9%)
営業利益	38,258	<b>44,444</b>	+6,186	(+16.2%)
営業利益率	10.8%	<b>12.0%</b>	+1.2P	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	29,414	<b>32,158</b>	+2,743	(+9.3%)
四半期純利益率	8.3%	<b>8.7%</b>	+0.4P	-

・営業外収益：1,741百万円（前年同期比 ▲178百万円）  
 ・営業外費用： 716百万円（前年同期比 ▲631百万円）

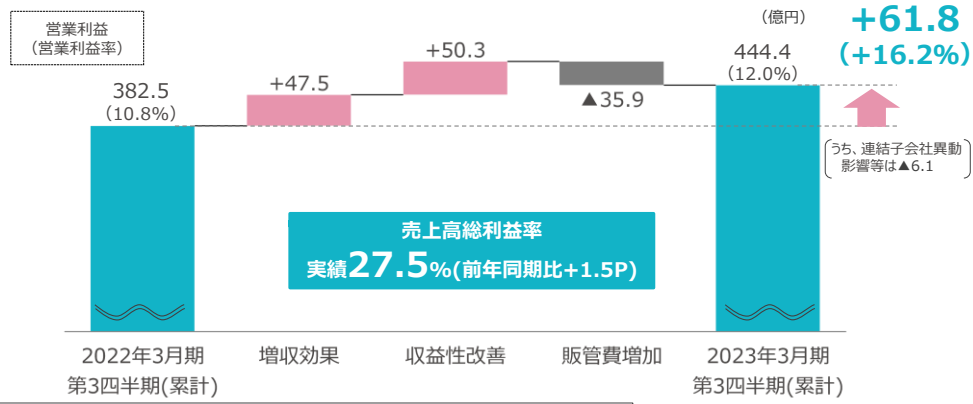
・特別利益： 4,694百万円（前年同期比 ▲2,168百万円）  
 → 投資有証券売却益 4,639百万円 等  
 ・特別損失： 1,113百万円（前年同期比 ▲174百万円）

- ・ それでは、5ページをご覧ください。2023年3月期第3四半期の業績概要です。
- ・ 上期からの良好な事業環境が継続した中で、しっかりと事業拡大を進めることで増収増益を実現することができました。
- ・ 売上高は前年同期比4.9%増の3,703億円。
- ・ 営業利益は前年同期比16.2%増の444億円となり、営業利益率は10.8%から12.0%へ、大きく向上しました。
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比9.3%増の321億円となりました
- ・ なお、当第3四半期に投資有価証券売却益40億円強を特別利益として計上しております。

**2023年3月期第3四半期（累計）  
営業利益要因別増減分析（前年同期比）**



・積極的な先行投資を吸収して営業増益を達成。売上総利益率は27.5%に向上。



**売上高総利益率 実績27.5%(前年同期比+1.5P)**

**構造転換推進のための先行投資コスト：前年同期比+10.8**  
 (売上原価：+5.9 販管費：+4.8)  
 「ソフトウェア投資」 / 「人材投資」 / 「研究開発投資」  
 +  
**人材投資コスト (追加分)：前年同期比+23.4**  
 (売上原価：+10.3 販管費：+13.0)

**働き方改革推進のためのオフィス改革コスト：前年同期比▲8.9**  
 (売上原価：▲2.5 販管費▲6.3)

<販管費増減>

連結子会社異動影響等	▲0.6
オフィス改革	▲6.3
先行投資 (処遇改善含む)	+17.9
経費削減・本社機能高度化	▲1.3
その他 (ブランド関連含む)	+26.3
計	+35.9

© 2023 TIS Inc.

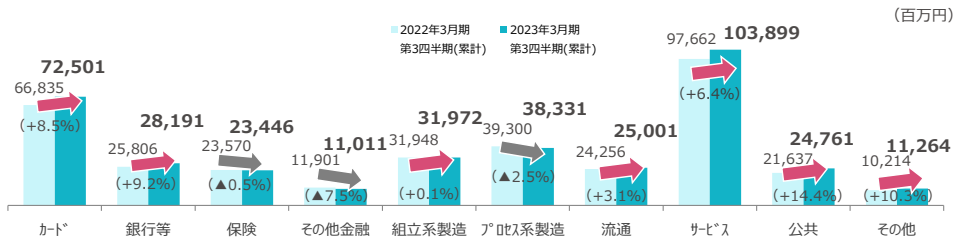
6

- ・ 6ページは営業利益の要因別増減です。
- ・ これまでと同様、増収効果及び収益性改善による売上総利益の増加が販管費の増加を吸収して、前年同期比61.8億円の営業増益となりました。
- ・ 売上総利益率は、高付加価値ビジネスの提供、生産性・品質向上施策の推進等により、前年同期比1.5ポイント上昇し、27.5%まで向上しました。
- ・ なお、不採算案件は、第3四半期で1.4億円、第3四半期累計では2.7億円ということで、上期に引き続きしっかり抑制することができました。

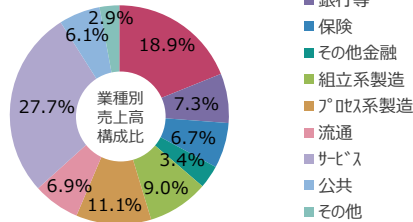
## 2023年3月期第3四半期（累計） 顧客業種別売上高



・カードを中心にサービス・公共が牽引。プロセス系製造は連結除外影響と反動減により減収。

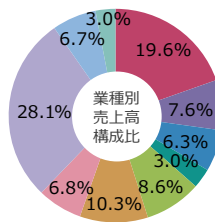


<2022年3月期第3四半期（累計）>



金融分野：36.3% 産業分野：54.7%  
公共分野：6.1% その他：2.9%

<2023年3月期第3四半期（累計）>



金融分野：36.5% 産業分野：53.8%  
公共分野：6.7% その他：3.0%

© 2023 TIS Inc.

7

- ・ 7ページをご覧ください。顧客業種別売上高の状況です。
- ・ 「カード」を中心として、「サービス」「公共」などが牽引し、好調に推移しました。
- ・ 「銀行」については海外を中心に力強く伸びています。
- ・ 「製造」については、前期に実施した子会社売却による連結除外影響と案件のピークアウトの影響で弱く見えていますが、これらを除けば増収という状況です。

2023年3月期第3四半期（累計）  
 主要セグメント別損益状況（前年同期比）



（百万円）		2022年3月期 第3四半期 （累計）	2023年3月期 第3四半期 （累計）	前年同期比	
オフリングサービス	売上高	74,917	81,516	+6,598	(+8.8%)
	営業利益	3,443	4,499	+1,055	(+30.6%)
	営業利益率	4.6%	5.5%	+0.9P	-
BPM	売上高	32,040	32,223	+182	(+0.6%)
	営業利益	3,555	3,644	+89	(+2.5%)
	営業利益率	11.1%	11.3%	+0.2P	-
金融IT	売上高	67,839	74,079	+6,240	(+9.2%)
	営業利益	9,131	9,907	+776	(+8.5%)
	営業利益率	13.5%	13.4%	▲0.1P	-
産業IT	売上高	78,863	82,621	+3,757	(+4.8%)
	営業利益	10,520	12,124	+1,604	(+15.3%)
	営業利益率	13.3%	14.7%	+1.4P	-
広域ITソリューション	売上高	114,475	115,422	+946	(+0.8%)
	営業利益	11,066	13,569	+2,502	(+22.6%)
	営業利益率	9.7%	11.8%	+2.1P	-

オフリングサービス : 決済や基盤系のIT投資拡大の動きが牽引役となり、増収増益。海外事業も売上高伸長に寄与。  
 BPM : 既存のデータエントリー業務は苦戦も、デジタル化ニーズの高まりを背景として安定的に推移。  
 金融IT : クレジットカード系の根幹先顧客におけるIT投資拡大により増収増益。収益性は体制強化等の施策推進に伴う影響あり。  
 産業IT : 製造、エネルギーの既存顧客を中心としたIT投資拡大の動きに加え、収益性改善により増収増益。  
 広域ITソリューション : 上期までの連結除外影響を打ち返し、IT投資拡大の動き、採算性を重視した事業活動の推進等により増収増益。

© 2023 TIS Inc.

8

- ・ 8ページは、主要なセグメント別の状況です。
- ・ 「オフリングサービス」については、デジタル化の進展に伴う決済、基盤系案件の積み上がり牽引役となり、増収増益となりました。海外事業についても売上高の伸びに貢献しています。
- ・ 「BPM」については既存のデータエントリー業務が苦戦している中で、デジタル化ニーズの高まりを背景としたソリューションの提供等により安定的に推移しています。
- ・ 「金融IT」はカード系根幹先顧客のIT投資拡大の動き等を受けて増収増益となりました。営業利益率については、体制強化等の施策推進に伴う影響がありながらも前年同期並みの水準となっています。
- ・ 「産業IT」については、製造業やエネルギー系の根幹先顧客を中心としたIT投資拡大の動きに加え、生産性・品質向上施策の推進等により収益性改善が進んだことから増収増益となりました。
- ・ 「広域ITソリューション」は、上期までのおよそ40億円の連結除外影響を吸収し、増収に転じました。営業利益は、採算性を重視した事業活動の推進等により増益となり、営業利益率も2.1ポイント増と大幅に向上しています。
- ・ なお、9ページで事業別に外部顧客向けの売上高を掲載しておりますので、セグメント別の詳細な状況を確認する上での参考にしていただければと存じます。



2023年3月期第3四半期（累計）  
 主要セグメント別売上高（事業別）※外部顧客向け



（百万円）	2022年3月期 第3四半期 （累計）	2023年3月期 第3四半期 （累計）	前年同期比	
オファリングサービス	66,505	<b>72,506</b>	+6,000	(+9.0%)
ソフトウェア開発	34,621	<b>34,055</b>	▲566	(▲1.6%)
運用・クラウドサービス	18,824	<b>22,732</b>	+3,907	(+20.8%)
製品・ソフトウェア販売	13,059	<b>15,718</b>	+2,659	(+20.4%)
BPM	30,242	<b>30,505</b>	+263	(+0.9%)
ソフトウェア開発	12,674	<b>13,082</b>	+407	(+3.2%)
運用・クラウドサービス	17,567	<b>17,423</b>	▲143	(▲0.8%)
製品・ソフトウェア販売	—	—	—	—
金融IT	66,593	<b>72,836</b>	+6,242	(+9.4%)
ソフトウェア開発	34,134	<b>39,837</b>	+5,703	(+16.7%)
運用・クラウドサービス	27,037	<b>27,713</b>	+676	(+2.5%)
製品・ソフトウェア販売	5,422	<b>5,284</b>	▲137	(▲2.5%)
産業IT	77,529	<b>82,067</b>	+4,538	(+5.9%)
ソフトウェア開発	50,816	<b>55,426</b>	+4,610	(+9.1%)
運用・クラウドサービス	17,564	<b>17,870</b>	+306	(+1.7%)
製品・ソフトウェア販売	9,147	<b>8,769</b>	▲378	(▲4.1%)
広域ITソリューション	110,151	<b>110,651</b>	+500	(+0.5%)
ソフトウェア開発	57,756	<b>57,616</b>	▲139	(▲0.2%)
運用・クラウドサービス	37,423	<b>40,729</b>	+3,305	(+8.8%)
製品・ソフトウェア販売	14,972	<b>12,305</b>	▲2,666	(▲17.8%)

© 2023 TIS Inc.

9

（説明省略）

(参考) 2023年3月期第3四半期 (10-12月)  
業績ハイライト・主要セグメント別損益



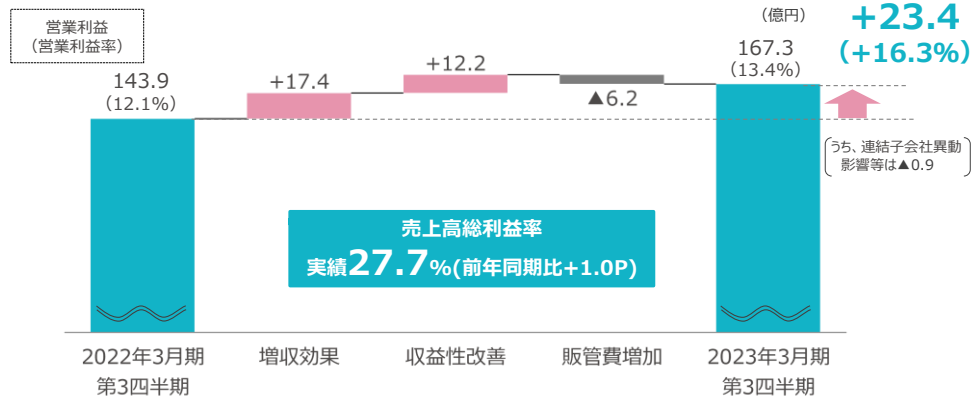
(百万円)		2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	前年同期比	
売上高		118,800	<b>125,077</b>	+6,276	(+5.3%)
営業利益		14,391	<b>16,734</b>	+2,343	(+16.3%)
営業利益率		12.1%	<b>13.4%</b>	+1.3P	-
親会社株主に帰属する四半期純利益		13,892	<b>13,323</b>	▲569	(▲4.1%)
四半期純利益率		11.7%	<b>10.7%</b>	▲1.0P	-
<b>主要セグメント別</b>					
オフライン サービス	売上高	25,131	<b>27,628</b>	+2,497	(+9.9%)
	営業利益	1,285	<b>2,004</b>	+718	(+55.9%)
	営業利益率	5.1%	<b>7.3%</b>	+2.2P	-
BPM	売上高	10,810	<b>10,732</b>	▲77	(▲0.7%)
	営業利益	1,329	<b>1,239</b>	▲90	(▲6.8%)
	営業利益率	12.3%	<b>11.5%</b>	▲0.8P	-
金融IT	売上高	23,496	<b>25,361</b>	+1,864	(+7.9%)
	営業利益	3,214	<b>3,596</b>	+381	(+11.9%)
	営業利益率	13.7%	<b>14.2%</b>	+0.5P	-
産業IT	売上高	26,903	<b>27,401</b>	+497	(+1.9%)
	営業利益	4,585	<b>4,361</b>	▲223	(▲4.9%)
	営業利益率	17.0%	<b>15.9%</b>	▲1.1P	-
広域IT ソリューション	売上高	36,946	<b>39,117</b>	+2,171	(+5.9%)
	営業利益	3,921	<b>5,216</b>	+1,294	(+33.0%)
	営業利益率	10.6%	<b>13.3%</b>	+2.7P	-

© 2023 TIS Inc.

10

- 10ページから12ページは、第3四半期の3か月間の業績を示したもので、全体としては引き続き好調だったと考えています。
- なお、四半期純利益の減少は、前年同期比で特別利益の計上額が減少したことによるものです。

(参考) 2023年3月期第3四半期 (10-12月)  
 営業利益要因別増減分析 (前年同期比)



構造転換推進のための先行投資コスト：前年同期比+5.6 (売上原価：+3.9 販管費：+1.7) 「ソフトウェア投資」 / 「人材投資」 / 「研究開発投資」 + 人材投資コスト (追加分)：前年同期比+6.5 (売上原価：+2.6 販管費：+3.8)
働き方改革推進のためのオフィス改革コスト：前年同期比▲1.8 (売上原価：▲0.8 販管費▲1.0)

＜販管費増減＞	
連結子会社異動影響等	+1.0
オフィス改革	▲1.0
先行投資 (処遇改善含む)	+5.6
経費削減・本社機能高度化	▲0.7
その他 (ブランド関連含む)	+1.2
計	+6.2

© 2023 TIS Inc.

(説明省略)

(参考) 2023年3月期第3四半期 (10-12月)  
 主要セグメント別売上高 (事業別) ※外部顧客向け



(百万円)	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	前年同期比	
オファリングサービス	22,264	<b>24,626</b>	+2,361	(+10.6%)
ソフトウェア開発	11,621	<b>11,225</b>	▲396	(▲3.4%)
運用・クラウドサービス	6,590	<b>8,380</b>	+1,790	(+27.2%)
製品・ソフトウェア販売	4,052	<b>5,020</b>	+967	(+23.9%)
BPM	10,241	<b>10,188</b>	▲53	(▲0.5%)
ソフトウェア開発	4,342	<b>4,345</b>	+2	(+0.1%)
運用・クラウドサービス	5,898	<b>5,842</b>	▲55	(▲0.9%)
製品・ソフトウェア販売	—	—	—	—
金融IT	23,091	<b>24,924</b>	+1,833	(+7.9%)
ソフトウェア開発	11,641	<b>14,127</b>	+2,485	(+21.3%)
運用・クラウドサービス	9,489	<b>9,193</b>	▲295	(▲3.1%)
製品・ソフトウェア販売	1,960	<b>1,604</b>	▲355	(▲18.1%)
産業IT	26,451	<b>27,222</b>	+770	(+2.9%)
ソフトウェア開発	18,224	<b>18,383</b>	+158	(+0.9%)
運用・クラウドサービス	5,788	<b>6,012</b>	+223	(+3.9%)
製品・ソフトウェア販売	2,438	<b>2,826</b>	+387	(+15.9%)
広域ITソリューション	35,798	<b>37,476</b>	+1,677	(+4.7%)
ソフトウェア開発	18,069	<b>19,622</b>	+1,553	(+8.6%)
運用・クラウドサービス	12,587	<b>13,726</b>	+1,138	(+9.0%)
製品・ソフトウェア販売	5,141	<b>4,128</b>	▲1,013	(▲19.7%)

© 2023 TIS Inc.

12

(説明省略)

## 2023年3月期第3四半期（累計） 受注状況（全体）



- ・受注高・受注残高とも過去最高に増加。
- ・「BPM」「産業IT」の受注高減少を含め、増減は主にソフトウェア開発の受注高の影響。

（百万円）	2022年3月期 第3四半期 （累計）	2023年3月期 第3四半期 （累計）	前年同期比	
当期受注高	327,633	<b>344,697</b>	+17,064	(+5.2%)
オファリングサービス	61,051	<b>64,223</b>	+3,171	(+5.2%)
BPM	31,396	<b>30,762</b>	▲634	(▲2.0%)
金融IT	56,076	<b>67,739</b>	+11,662	(+20.8%)
産業IT	76,538	<b>74,741</b>	▲1,797	(▲2.3%)
広域ITソリューション	102,569	<b>107,231</b>	+4,662	(+4.5%)
期末受注残高	122,397	<b>138,543</b>	+16,145	(+13.2%)
オファリングサービス	20,685	<b>23,456</b>	+2,771	(+13.4%)
BPM	8,369	<b>8,760</b>	+390	(+4.7%)
金融IT	28,218	<b>34,293</b>	+6,074	(+21.5%)
産業IT	29,541	<b>30,539</b>	+997	(+3.4%)
広域ITソリューション	35,582	<b>41,494</b>	+5,911	(+16.6%)

© 2023 TIS Inc.

■ 13

- ・ 13ページからは受注状況についてのご説明です。
- ・ まず、13ページは運用を含めた全体の受注状況です。
- ・ 受注高は前年同期比5.2%増の3,446億円、受注残高は同じく13.2%増の1,385億円と、どちらも第3四半期累計としては過去最高に積み上がりました。
- ・ 「BPM」「産業IT」の受注高減少を含め、増減はソフトウェア開発の受注高の影響が大きいことから、次のページでご説明します。

## 2023年3月期第3四半期（累計） 受注状況（ソフトウェア開発）



- ・オフリングサービスは案件のピークアウト、産業ITは公共系大型案件の反動減を主要因として減少。
- ・金融ITは複数の大型案件が牽引、広域ITは幅広い業種からIT投資需要の取り込みにより増加。

(百万円)	2022年3月期 第3四半期 (累計)	2023年3月期 第3四半期 (累計)	前年同期比	
当期受注高	188,342	197,217	+8,875	(+4.7%)
オフリングサービス	31,336	30,208	▲1,127	(▲3.6%)
BPM	13,829	13,338	▲490	(▲3.5%)
金融IT	32,566	43,099	+10,532	(+32.3%)
産業IT	55,000	52,333	▲2,667	(▲4.9%)
広域ITソリューション	55,608	58,237	+2,629	(+4.7%)
期末受注残高	80,831	91,682	+10,851	(+13.4%)
オフリングサービス	12,685	12,614	▲71	(▲0.6%)
BPM	8,369	8,760	+390	(+4.7%)
金融IT	18,504	25,139	+6,634	(+35.9%)
産業IT	21,459	21,045	▲413	(▲1.9%)
広域ITソリューション	19,812	24,123	+4,310	(+21.8%)

© 2023 TIS Inc.

■ 14

- ・ では、14ページ、「ソフトウェア開発」の受注状況についてです。
- ・ 「オフリングサービス」、「産業IT」は案件のピークアウトが主要因となり、前年同期比減少となりました。
- ・ 「BPM」の減少は、前上期の受注が高かった影響によるものなので心配していません。
- ・ 「金融IT」は、複数の大型案件の受注が継続的に寄与しています。
- ・ 「広域ITソリューション」は、上期までに受注高でおよそ40億円の連結除外影響があった中、幅広い業種からのIT投資需要を取り込めたことから、前年同期比で増加となり、力強く受注を積み上げることが出来ました。

## 2023年3月期第3四半期（10-12月）受注状況

### 受注状況（全体）

（百万円）	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	前年同期比	
当期受注高	83,723	<b>78,703</b>	▲5,020	(▲6.0%)
オファリングサービス	13,239	<b>13,482</b>	+242	(+1.8%)
BPM	9,857	<b>10,745</b>	+887	(+9.0%)
金融IT	13,420	<b>8,482</b>	▲4,937	(▲36.8%)
産業IT	23,896	<b>20,994</b>	▲2,902	(▲12.1%)
広域ITソリューション	23,309	<b>24,999</b>	+1,689	(+7.2%)

### 受注状況（ソフトウェア開発）

（百万円）	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	前年同期比	
当期受注高	57,185	<b>53,727</b>	▲3,457	(▲6.0%)
オファリングサービス	7,352	<b>8,377</b>	+1,024	(+13.9%)
BPM	3,958	<b>4,902</b>	+943	(+23.8%)
金融IT	11,556	<b>6,731</b>	▲4,824	(▲41.7%)
産業IT	18,894	<b>16,840</b>	▲2,053	(▲10.9%)
広域ITソリューション	15,424	<b>16,875</b>	+1,451	(+9.4%)

- 15ページは第3四半期の3か月間の受注状況です。
- 「金融IT」の受注高の減少は、大型案件の受注の波によるものです。
- また、「産業IT」の減少は、公共系案件の反動減があり、この影響を除くと第3四半期のみならず、累計でも前年同期比増加となります。
- 13ページにあったように、第3四半期末の受注残高もしっかり積み上がっていますので、事業環境に対する見方は上期から変化はなく、今後もしっかりとした足取りで事業展開を進めていけると考えています。

2023年3月期第3四半期（累計）業績概要

2023年3月期 業績見通し

参考資料

- 続きまして、2023年3月期の通期業績見通しについてご説明します。



## 2023年3月期 業績予想の修正について



- ・政策保有株式の売却による特別利益の計上等を踏まえ、通期計画を変更。
- ・売上高、営業利益、経常利益は概ね現在の予想に沿って推移のため、修正はなし。

(百万円)	2023年3月期 修正計画	2023年3月期 最新計画	前回計画比	
売上高	505,000	<b>505,000</b>	-	-
営業利益	59,000	<b>59,000</b>	-	-
営業利益率	11.7%	<b>11.7%</b>	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	39,800	<b>52,000</b>	+12,200	(+30.7%)
当期純利益率	7.9%	<b>10.3%</b>	+2.4P	-
1株当たり当期純利益 (円)	163.25	<b>213.50</b>	+50.25	(+30.8%)
ROE *	13.7%	<b>17.8%</b>	+4.1P	-

\* 2023年3月期のROEは、試算値。

- ・ まず17ページで、今回の業績予想の修正についてご説明します。
- ・ 適時開示資料等でもご案内しているように、政策保有株式の売却による特別利益の計上等を踏まえて、上期決算において修正した計画から当期純利益の計画をさらに引き上げ、122億円増の520億円としました。
- ・ 売上高、営業利益、経常利益については、概ね上期決算において修正した計画に沿って進捗しているため、変更はありません。

## 2023年3月期 業績予想ハイライト



- ・堅調なIT投資需要を背景として、中期経営計画の計数目標を上回る増収増益の計画。
- ・構造転換の実現に向けて、その原動力となる人材に対する投資を強化。

(百万円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 最新計画	前期比	
売上高	482,547	<b>505,000</b>	+22,452	(+4.7%)
営業利益	54,739	<b>59,000</b>	+4,260	(+7.8%)
営業利益率	11.3%	<b>11.7%</b>	+0.4P	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	39,462	<b>52,000</b>	+12,537	(+31.8%)
当期純利益率	8.2%	<b>10.3%</b>	+2.1P	—
1株当たり当期純利益 (円)	157.69	<b>213.50</b>	+55.81	(+35.4%)
ROE *	14.0%	<b>17.8%</b>	+3.8P	—

\* 2023年3月期のROEは、試算値。

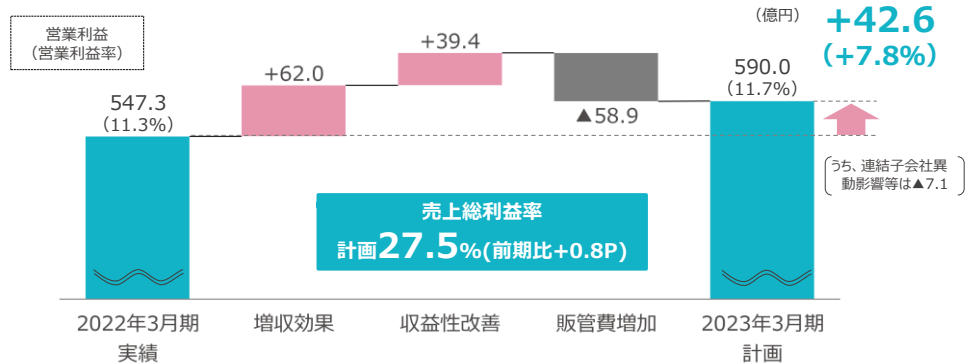
- ・ 18ページは、今申し上げた最新計画を前期比で示したものです。
- ・ 冒頭に申し上げた通り、中期経営計画の目標値を1年前倒しで達成できるよう、引き続きしっかりと取り組んでまいります。
- ・ また、生み出したキャッシュについては、人材に対する先行投資をはじめとした積極的な投資に振り向け、企業成長を加速させていきたいと考えています。

## 2023年3月期 営業利益要因別増減分析（予想）

2022年11月2日発表  
の計画値より変更なし。



・高付加価値ビジネス推進や生産性向上等が処遇改善を含めた積極的な先行投資や電気代高騰に伴うコスト増を吸収し、営業増益を見込む。



<b>構造転換推進のための先行投資コスト：前年同期比+22.7</b> (売上原価：+13.5 販管費：+9.1) 「ソフトウェア投資」 / 「人材投資」 / 「研究開発投資」 + 人材投資コスト (追加分)：前年同期比+26.5 (売上原価：+13.2 販管費：+13.3)
<b>働き方改革推進のためのオフィス改革コスト：前年同期比▲9.2</b> (売上原価：▲3.4 販管費▲5.7)

<b>&lt;販管費増減&gt;</b>	
連結子会社異動影響等	+0.4
オフィス改革	▲5.7
先行投資 (処遇改善含む)	+22.4
経費削減・本社機能高度化	▲2.1
その他 (ブランド関連含む)	+43.8
計	+58.9

© 2023 TIS Inc.

19

- ・ 19ページ、20ページについては修正計画から変更がないため、あらためての説明は割愛させていただきます。

## 2023年3月期 主要セグメント別損益状況（予想）

2022年11月2日発表  
の計画値より変更なし。



(百万円)		2022年3月期 実績	2023年3月期 最新計画	前期比	
オフアリング サービス	売上高	103,167	<b>109,000</b>	+5,832	(+5.7%)
	営業利益	4,692	<b>6,000</b>	+1,307	(+27.9%)
	営業利益率	4.5%	<b>5.5%</b>	+1.0P	-
BPM	売上高	42,951	<b>44,000</b>	+1,048	(+2.4%)
	営業利益	4,991	<b>5,300</b>	+308	(+6.2%)
	営業利益率	11.6%	<b>12.0%</b>	+0.4P	-
金融IT	売上高	91,651	<b>98,500</b>	+6,848	(+7.5%)
	営業利益	12,355	<b>12,700</b>	+344	(+2.8%)
	営業利益率	13.5%	<b>12.9%</b>	▲0.6P	-
産業IT	売上高	108,751	<b>111,900</b>	+3,148	(+2.9%)
	営業利益	15,356	<b>16,700</b>	+1,343	(+8.7%)
	営業利益率	14.1%	<b>14.9%</b>	+0.8P	-
広域IT ソリューション	売上高	156,231	<b>158,800</b>	+2,568	(+1.6%)
	営業利益	16,492	<b>18,200</b>	+1,707	(+10.4%)
	営業利益率	10.6%	<b>11.5%</b>	+0.9P	-

オフアリングサービス	: 決済関連ビジネスの拡大を中心として、増収増益の計画。クレジットSaaSのローンチも貢献が始まる。
BPM	: BPOニーズへの対応に加えて、業務最適化支援を積極的に推進し、増収増益の計画。
金融IT	: カード根幹先顧客向け取引拡大を中心として、増収増益の計画。電気代高騰の影響が大きく、利益率低下。
産業IT	: 複数案件の一部ピークアウトを見込むが、根幹先顧客への取引拡大を中心として、増収増益の計画。
広域ITソリューション	: 既存顧客向け取引拡大およびソリューションの横展開推進により、増収増益の計画。

© 2023 TIS Inc.

20

(説明省略)

### ■ 自己株式の取得完了及び消却

- ✓ 2022年5月から実施してきた総額約300億円の自己株式の取得を2022年12月に完了。
- ✓ 上記のうち資本構成の適正化を目的とした約245億円相当（消却前発行済株式総数の2.7%）の消却を決定。消却完了予定日は2023年2月28日。

### ■ 政策保有株式の縮減

- ✓ 2022年3月末の残高543億円のうち、2023年3月期第4四半期に178億円の売却を決定。第3四半期までの売却実績64億円と合わせ、通期では242億円縮減できる予定。
- ✓ 目標とする「貸借対照表計上額の連結純資産に対する比率 10%水準」の早期実現に向けて大きく前進。

### ■ 新人事制度等を通じた人材への投資強化

- ✓ TISの人事制度改定に伴う報酬水準の引き上げを中心として、2024年3月期にグループ全体で50億円規模の人員費増を見込む。
- ✓ 持続的な企業価値向上に不可欠な対応と位置づけ、最重要の経営資本である人材への投資強化を通じて付加価値向上を推進。

- 21ページで、本日発表の適時開示も踏まえてトピックスを3点ご説明します。
- 1点目は、自己株式の取得終了と消却についてです。
- すでにご案内のとおり、約300億円の自己株式の取得は2022年12月に完了していますが、このうち、資本構成の適正化を目的とした約245億円相当、約2.7%の自己株式について、当初予定どおり消却することを決定しました。
- 2点目は、政策保有株式の縮減についてです。
- 政策保有株式の縮減を進める中、第4四半期に178億円の売却を決定しました。第3四半期までの売却実績64億円と合わせて通期では242億円を縮減できる予定です。
- 前期末の543億円から大幅に縮減することで、目標とする「貸借対照表計上額の連結純資産に対する比率 10%水準」の早期実現に向けて大きく前進することになります。
- 最後に人材への先行投資強化についてです。
- 第2四半期決算の際にご説明したとおり、企業成長の担い手である社員の活躍にしっかり応えていくのは経営の責務であると認識しており、会社と社員の価値交換性を高度化するために、当社では2023年4月に新人事制度を導入し、「働く意義」「報酬」の改革をさらに推し進めます。特に「報酬」については、事業を牽引する高度人材と未来を担う若手層に重点投資し、最大で17%、平均で6%アップとなる基本給の引き上げを行うこととしました。
- こうした取り組みを中心に、グループ全体で最も重要な経営資本である人材への先行投資を強化することで、2024年3月期は50億円規模の人員費増を見込んでいますが、これを事業収益で吸収し、利益成長を継続できるように経営計画を策定していきたいと考えています。
- 以上で、説明を終了いたします。

2023年3月期第3四半期（累計）業績概要

2023年3月期 業績見通し

参考資料

（説明省略）

## 2023年3月期下期

### 業績ハイライト・主要セグメント別損益（予想）



(百万円)		2022年3月期 下期	2023年3月期 下期	前年同期比	
売上高		248,215	259,694	+11,479	(+4.6%)
営業利益		30,872	31,290	+417	(+1.4%)
営業利益率		12.4%	12.0%	▲0.4P	-
親会社株主に帰属する四半期純利益		23,941	33,165	+9,224	(+38.5%)
四半期純利益率		9.6%	12.8%	+3.2P	-
<b>主要セグメント別</b>					
オフアライン サービス	売上高	53,380	<b>55,112</b>	+1,731	(+3.2%)
	営業利益	2,534	<b>3,505</b>	+970	(+38.3%)
	営業利益率	4.7%	<b>6.4%</b>	+1.7P	-
BPM	売上高	21,720	<b>22,509</b>	+788	(+3.6%)
	営業利益	2,766	<b>2,894</b>	+128	(+4.6%)
	営業利益率	12.7%	<b>12.9%</b>	+0.2P	-
金融IT	売上高	47,308	<b>49,781</b>	+2,472	(+5.2%)
	営業利益	6,438	<b>6,388</b>	▲50	(▲0.8%)
	営業利益率	13.6%	<b>12.8%</b>	▲0.8P	-
産業IT	売上高	56,792	<b>56,680</b>	▲111	(▲0.2%)
	営業利益	9,421	<b>8,936</b>	▲485	(▲5.1%)
	営業利益率	16.6%	<b>15.8%</b>	▲0.8P	-
広域ITソリューション	売上高	78,702	<b>82,495</b>	+3,793	(+4.8%)
	営業利益	9,347	<b>9,847</b>	+499	(+5.3%)
	営業利益率	11.9%	<b>11.9%</b>	±0.0P	-

© 2023 TIS Inc.

下期計画 = 通期計画 - 上期実績 ■ 23

(説明省略)

## 2023年3月期第3四半期 プレスリリース/お知らせ①



発表日付	タイトル
2022年10月1日	TIS および連結子会社の人事異動、機構改革のお知らせ
2022年10月3日	TIS、千葉県君津市の実証事業「君津ソーシャルイノベーションプラットフォーム（K-SIP）」に採択
2022年10月4日	マイクロメイツ、Microsoft Teamsの活用ガイドブックとFAQの同時購入で、総額の50%OFFで提供するキャンペーンを開始
2022年10月5日	TIS、「第4回 未来と健康のための高校生ビジネスコンテスト」開催のお知らせ
2022年10月11日	TISの経費精算クラウドサービス「Spendia」の請求書支払機能を強化
2022年10月18日	旭化成とTIS、偽造防止デジタルプラットフォーム「Akliteia®」を構築
2022年10月25日	ネクスウェイ、DSA DATA-EX賞「データ社会推進 功労賞」を受賞
2022年10月25日	TIS、電池事業を手掛けるGSユアサの物理サーバ上の仮想マシン群を仮想化基盤ごとVMware Cloud on AWSへ移行
2022年10月26日	TIS、日油の電子帳簿保存法改正への対応を支援
2022年10月28日	TIS千代田システムズ、女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定」の2つ星を取得
2022年10月31日	インテック、富山県総合防災訓練で自治体向けIoTプラットフォームを活用した避難所混雑検知の実証実験を実施
2022年10月31日	ネクスウェイのSMS配信サービス「SMSLINK」が埼玉県の新型コロナウイルス感染者への連絡業務に採用
2022年11月1日	連結子会社の人事異動のお知らせ
2022年11月1日	東近江市で、TISの「XR Pay」を活用した伝統文化を疑似体験できるバーチャルショップの実証事業を展開
2022年11月1日	「令和4年台風第15号災害」への支援について
2022年11月2日	TISインテックグループ、データセンターにおけるカーボンニュートラルに向けた取り組みを推進
2022年11月4日	TIS、電帳法対応を含めた企業間取引のデジタル化をトータルでサポートする「電帳法・電子取引対応サービス」の提供を開始
2022年11月8日	TIS、「au PAY」、給与デジタルマネー払い対応のシステムを導入
2022年11月9日	TIS、JFEスチール仙台製造所の基幹システムのオープン化を支援
2022年11月10日	クオリカ、工場の生産性向上ソリューション「KOM-MICS」の電力量監視オプション機能をリリース
2022年11月18日	インテック、「第16回ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2022」で、ID認証サービス（認人）、家電手帳がW受賞
2022年11月21日	TIS、TIS千代田システムズ、湾標アナリティクス、「製造DXコンサルティングサービス」を提供開始
2022年11月24日	インテック、社内の報告業務を集約・集計する「報告書集計システム」のクラウド版を提供開始

(説明省略)



## 2023年3月期第3四半期 プレスリリース/お知らせ②



発表日付	タイトル
2022年11月24日	TISの業務チャットボット作成サービス「DialogPlay」でニチレイグループの社内問い合わせをデジタルで効率化
2022年11月25日	TISのAI OCRツールサービス「Paperoid」にお客様自身で帳票振分精度を向上できるチューニング機能を追加
2022年11月29日	インテック、病理・細胞診検査業務支援システム「EXpath」の新バージョンを2023年4月から提供開始
2022年11月30日	TISインテックグループ新テレビCM、2本同時スタート！「ここにもいたのか！ヘルスケア」篇「ここにもいたのか！ロボティクス」篇
2022年12月1日	TISインテックグループ、カーボンニュートラル宣言
2022年12月1日	連結子会社の人事異動のお知らせ
2022年12月6日	TIS、東洋インキSCホールディングスのデータドリブン経営実現に向けたプロジェクトを支援
2022年12月8日	インテック、Wellon Solutionsの家賃保証サービス「ポータル家賃保証」の申込み・受付システムを構築
2022年12月13日	TIS、360度実写観光メタバースアプリ「BURALIT」をリリース
2022年12月13日	インテック、富山県魚津市のスマートシティデータ連携基盤を構築し、リアルタイム遠隔監視の運用を支援
2022年12月14日	ネクスウェイ、「薬剤師コミュニケーションサービス」に薬局・製薬企業間の情報伝達を支援する「DI電子提供機能」を追加
2022年12月14日	インテック、5年連続「東京都スポーツ推進企業」に認定
2022年12月15日	TIS、大和 IR「2022 年インターネット IR 表彰」において、最優秀賞を 2 年連続で受賞
2022年12月16日	ネクスウェイの「NEXLINKオンデマンド便サービスAPIタイプ」が営業DXサービス「Sansan」の「DM送付オプション」に採用
2022年12月19日	ネクスウェイ、イオン九州の食品廃棄ロスやピーク時の欠品対策のPoCにクラウドカメラサービス「売場ウォッチ」を導入
2022年12月20日	ロート製薬がインテックの「EDIアウトソーシングサービス（EINS/EDI-Hub Nex）」を採用
2022年12月20日	TIS、屋内配送向けサービスロボットによる病院内実証実験を実施
2022年12月21日	TISの業務チャットボット作成サービス「DialogPlay」がスマートシニアライフ事業のLINE公式アカウントに採用
2022年12月21日	ネクスウェイ、エッグ、TACTが、AIコールを活用した自治体24時間365日の電話対応の実証実験を開始
2022年12月22日	TIS、公的個人認証サービスを利用した「マイナンバーカード本人確認サービス」を開始
2022年12月23日	TIS、製薬会社向けDTox支援サービスを開始
2022年12月27日	TIS、iBankマーケティングのマネーサービス「Wallet+」の金融パーソナライズドコミュニケーションAI機能開発を支援

(説明省略)

ITで、社会の願い叶えよう。



<本資料の取り扱いに関して>

本資料は、著作権法及び不正競争防止法上の保護を受けております。資料の一部あるいは全部について、TIS株式会社から許諾を得ずに、複写、複製、転記、転載、  
改変、ノウハウの使用、営業秘密の開示等を行うことは禁じられております。本文記載の社名・製品名・ロゴは各社の商標または登録商標です。

(説明省略)